

2025年度一般選抜 出題の意図

科目名 【 TEAP日本史 】

TEAP日本史は、毎年、現代列島社会における特定の社会課題をテーマに設定、関連する事象の歴史的推移について検証する出題をなし、受験者の歴史に関する知識と、それらを活用する能力を確認している。またその出題を通し、不特定多数の受験生へ向けて、本学の建学の精神とキリスト教ヒューマニズムの観点から、時代・社会を考えるためのメッセージを発信することを心がけている。

2025年度入試では、当事者諸国の政治的思惑から年々緊張が高まりつつある「台湾有事」を背景に、日本が古代以来周縁化しつつ、一方で領有化を進めてきた島嶼や南北(東西)の境界、マイノリティとされた人びとについて、教科書でも閑却されている歴史事象を丹念に取り上げ、「多民族共生」のありよう、変遷を具体的に示した。また、近年学界でも注目されているセトラー・コロニアリズムの概念や、アイヌの人びとへのマイクロ・アグレッションにも言及、マジョリティの発する無自覚な暴力と、マイノリティの側に立って「日本史」をみなおすことの重要性を認識できるようにした。最後の論述問題(問18)は、わたしたちが日常的に用いる「日本人」という困い込みすら、歴史的に構築されてきたものであり、誰をまなざすかによって暴力となりうることを自覚し、「歴史」の多声性について考えてもらえるようにした。